

お知らせ

開催の有無が決まり次第、TSA websiteで
お知らせいたします。

学生担当者報 9

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 茶谷良佐 編集責任者 / 辻 雄二郎

TEL 0743-63-1511(内線5817) 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780
E-mail tsa@tenrikyo.or.jp TSA Website <https://tsa.tenrikyo.or.jp>

Vol. 403
立教183年
2020年
8月25日発行



「with コロナの人材育成」私論

事務局長

松山 勇一

個人的に考
えていること
を綴らせてい
ただきます。
さまざま
分野において、Zoomなどのリモートミ
ーティングの活用が進んできました。
講演や授業など、「一对他」の研修に
は今後も有効的に活用されることでし
ょう。しかし学生会活動など、参加者
全員が対等な立場である集まりでは、
新規の参加者を取り込みにくいという
問題も耳にします。学生会に関しては、
以前から人間関係が構築されている、
いわば『従来』のメンバーだからこそ、
スマーズにリモートの集まりが成立し
ている面は否めないと思います。

この点から今後の人材育成に関して
は、各会が「連携」を超えた、いわば
「融合」的な動きを見いだす必要があ
るのではないか。例えば、学
生会を卒業した女の子に対して、ただ
単に女子青年活動の案内をするだけで

なく、学生担当者は自身の娘や信者子
女を巻き込みながら、その女の子がし
っかりと女子青年として歩み出すまで
の間、心を掛け言葉を掛け、送り出し
ていくというイメージです。少年会か
ら学生会、学生会から青年会への送り
出しも同様になります。

私自身、教会本部での少年会育成委
員に引き続き、学生会の担当委員を務
めることとなり、十年以上にわたり関
わり続けた世代の若者たちがいます。
現在、時がたち彼ら彼女らとは共に教
会本部の御用を勤める仲間になりました。
た。今でも、年齢の差こそあれども、
何でも話し合える、また学び合える関
係であるのが、嬉しくもあり頼もしい
限りです。

「まなびば事前研修会」や「Work &
Talk」で、さまざまな教区に伺った中
で、あまり教会数・学生数が多くない
教区において、少年会から学生会への
つなぎがスマーズだと感じることが多々
ありました。これは一人ひとりの学生

学生担当者報

報告

七月例会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
「七月例会」は中止いたしました。

- ・中根大教会
- 7月14日

各地の動き

【直属学生層育成者講習会】

左記の教会は新型コロナウイルス感染拡大
防止のため中止になりました。

8月 11日	27日	31日	27日	まなびばチーム会議
12日	委員会	学修部部会	人材育成部部会	担当者活動部部会
13日	学修大学の部研究室会議	人材育成部部会	人材育成部部会	担当者活動部部会
春の学生おぢばがえり	春の学生おぢばがえり	プロジェクトチーム会議	学修部部会	事務局連絡会



実写版

はっぴす学園

大学生編

学生担当委員会Youtubeチャンネルより好評配信中!!

キャスト:天理教学生会運営委員、他 原作:「私立 はっぴす学園」渡辺一平

QRコード

2020 09

web
Happist

<https://happist.net/>

連載 每週月曜更新

・教理コーナー

逸話篇にまなぼう 清水 慶政(兵神大教会長)

・信仰エッセイ

明日の地図ひろげて 葛西 直己(津軽大教会長)

中西 はつよ(琵琶分教会長夫人)

Happist.net 検索 <https://happist.net> ※内容は一部変更になる場合があります。

春の学生おぢばがえりの直属アワーで、大教会長様のお話の前座として、私は、二十数年間毎回次のような内容の話をしました。「君たちは一本の大きなリンゴの木に実る、とてもおいしそうなリンゴです。その木はおぢばという大地に根付いています。周りを見回せば、同じような木がたくさんあります。どの木にもたくさんのリンゴが実っているのです。が、君たちはこの甲賀という太い幹から生まれ育ったリンゴです。君たちがこうして元気で、赤々とおいしそうなリンゴになれたのは、その親のお徳を枝分かれした分教会が受け取り、それを確実にそれぞれの家庭に運んでいるおかげです。だからこそ、おぢば、大教会といふ元をしっかりと知り、さらにそこに直接つながる人々に心を寄せることが、結果的には君たち自身がより一層魅力的なリンゴになれる秘訣なのです」と。

みんなキラキラしたまなざしで、うなづきながら聞いてくれていました。

甲賀大教会学生担当委員会前委員長 山崎房生

八月例会 委員長挨拶に代えて

先日、ふと書店に立ち寄ると、「イラスト図鑑 感染症と世界史」(宝島社 神野正史監修)という書籍に目が留まりました。副題には、「人類はパンデミックとどう戦ってきたか」とあり、興味を引かれつい購入してしまいました。アフター・コロナという新時代を生き延びるためにどうすればよいのかという問題に対して、これまでも人類が数限りないパンデミックを経験してきた中で、どのように対処してきたのかを歴史から学ぶ内容でした。結びには、「世界が一丸となつて対策を講じている今、この危機を乗り越えられないはずがありません。感染症は幾度も人類に襲いかかってきましたが、長い歴史から俯瞰すると、人類は感染症を乗り越えるたびに新しい時代を切り開いてきたのです。」と締めくられていきました。

お道の歴史も同様に、数々の感染症が流行する中にあつて、私たちの道の先輩はどんな状況であろうとも常に教祖のひながたを頼りに、にをいがけに奔走され真摯におたすけに努めてこられたことを思うと、本当に代々の伏せ込みのお陰で今があるのだと感謝いたします。

個別訪問も、神名流しもチラシ配りも、地域によつてはこれまでのように自由にできませんが、現在はSNSや地域の支援活動で、現代の難渋な問題に新たなにをいがけ・おたすけの道を活発に切り開いている話も聞きます。きっと新たな学生層育成の在り方もあるのだろうと思いません。手探りな状況ではありますが、今は下へ下へと根を伸ばしていく努力を惜しまずしていきたいと思います。

やがては携わっている学生が、次代を担うよう、ぼくとして大きい芽が吹くはずであります。

委員長 茶谷 良佐

立教百八十三年 天理教学生会 夏期リーダーの集い 開催報告

天理教学生会は、八月七日に教区を対象、八日に直属を対象として、Zoomミーティングを用いた「第五十七期天理教学生会 夏期リーダーの集い」をオンラインにて開催しました。当日は二十二名の学生スタッフに合わせて、二十四教区三十名、十九直属二十二名、計八十名の学生が参加しました。

今回は、新型コロナウイルスの影響で思うように学生会活動ができない中、これまでどのようないで通つてきたかを振り返ることに重点を置きました。

また、十月四日に実施予定の「立教百八十三年 道の学生ひのきしんDAY」に向けて、Zoomミーティング内でグループに分かれて「ねりあい」を行い、改めてひのきしんについて考えました。社会情勢によつては行事の開催がかなわない可能性がある中、学生たちは親神様の御守護を感じ、報恩感謝の心を態度や行動に表すことを再確認し、行事だけではなく日頃のひのきしんの精神を大切にすることを確かめました。

参加した学生たちは、オンラインでの行事という初めての試みの中、これまで学生会活動が続けてこられたありがたさをいま一度感じ、今後の学生会活動に一層励むことを誓い合いました。